opusdei.org

# オプス・デイの協力 者、短い証言の8

アイルランド、パラグアイ、 イタリア、スイス、ウルグア イ、ロシアの協力者の証言を 紹介します。

2016/03/29

## 見えない細かなところ

ゲイヴァン・ディクソン

スライゴ (アイルランド) 生まれ

ダブリン (同上) 在住

洗礼と堅信は幼い頃に受けました が、信仰に関して深い知識を持って はいませんでした。ある友人から毎 月の黙想会に誘われ、少しずつ信仰 の中身を発見していきました。自動 車修理工場で働いています。事故後 の修理の一環として、たくさんの車 の塗装をしていますが、一つひとつ の仕事に具体的な意向を込めるよう にしています。外からは見えないよ うな車の部分を処理することがよく ありますが、自分の仕事を祈りとし て捧げているのですから、そういう 箇所の作業をする時ほど、心を込め てします。自分の信仰をどのように 具体的に実践するかを習い、またそ れを人に伝えることは、本当に魅力 的であり、同時に自分とイエス・キ リストとのつながりをもっと強いも のにしてくれます。

#### 手遅れということはない

パトリシア・ラフエンテ

アスンシオン(パラグアイ)在住

新聞記者

回心するまでに、何年もかかりまし た。以前は、神様を自分の尺度に合 わせて、それが正しい生き方だと自 分を納得させていました。けれど も、知り合いを通して、キリスト教 的な生き方とはどのようなものかを 徐々に学んでいったのです。二〇〇 八年、オプス・デイのメンバーであ る友人が、初聖体と堅信の準備を一 対一のクラスでしてくれる所を紹介 してくれました。協力者になるよう 勧められた時、たくさんの人が私の ような利益を得られるために祈ると いう具体的な貢献をするべきだと 思ったのです。協力者になること は、神様からの贈り物であり、私に とって神の業を実践する素晴らしい

機会です。三十七歳で初聖体を受けた者として言えることは、本当の幸せを味わうのに手遅れということはない、ということです。

#### 回心の道

ジュセッペ・メッシーナ パレルモ (イタリア) 在住

## 建築家

協力者になるということは、私にとって回心へのはっきりとととを実っているのはったととを実っているという内的な喜びを得るという内的なです。毎日少めのでは、私の頭という経験は、私の頭という経験はした。今では、といりませんが問をしない日はありません

し、祈りにおいて主のお供をすることができなければ、物足りなく感じます。仕事に余裕ができた時は、家族のために時間を使うようにして妻のます。聖ホセマリアのお蔭で、妻の疲れを気遣ったり、子どもたちのあれをじたりすることができるようになったのです。

## 私の霊魂の糧

スザンヌ・ルズシクス

チューリヒ近郊のキルクベルグ (ス イス) 在住

私にとって協力者であることは、自分の生活一ことに霊的な生活一をよりよいものとする、ということです。受ける形成は、私の霊魂の糧です。毎日一歩ずつ、日常生活を通し

て聖人になることができるし、そうなるべきである、という聖ホセマリアの教えは、私にとってとても魅力的です。そのために必要な霊的な助けは、十分に受けることができています。

#### 偶然と必然

フアン・カルロス・ボルドーリ モンテビデオ (ウルグアイ) 在住

製本・古書修復職人

私は製本業の職人です。偶然、 『道』や『鍛』、『神の朋友』、その他の聖ホセマリアの著書が私の元にやって来たのです。その本を修復しているうちに、またもや偶然に、その内容が私の中に種のように蒔かれ育っていったのです。私の作業場 には、友人たちが自分の問題を打ち 明けによくやってきます。解決策を 与えることはできませんが、方向 ことはできませんが、。 ことはできます。 ことはできます。 ことはできます。 ことはできます。 にして、聖ホセマリアのご絵の 見守られた私の作業場は、戦いこの となったのです。友人たちは、る 聖人から何らかの良い助言を得ていきます。

## 好奇心から幸福へ

ナターシャ・ズボーヴァ

サンクト・ペテルブルク (ロシア) 在住

私はサンクト・ペテルスブルク郊外で生まれました。両親は大学教授で、誠実で素晴らしい人たちでしたが、当時のソ連で大部分の人たちがそうであったように、子どもたちに

神について話すことはありませんで した。信仰と接して最初に魅かれた のは、イエス・キリストを信じてい る人たちの生き方は信頼できるもの だということでした。けれども、私 の心はすぐには変わりませんでし た。私にとって神とは、困難に直面 した時に思い出すための存在に過ぎ ませんでした。それが変わったきっ かけは、二〇〇七年、息子の世話を 手伝ってくれていた女性が、プシキ ンの教会に彼を連れて行くように なったことです。好奇心に負けて、 私も行くようになったのですが、ミ サに与って、子どもの頃にしか味 わったことがない幸福を感じること ができたのです。二〇〇八年から、 モスクワに住むオプス・デイの人た ちが、私たちの教会で黙想会を開く ようになりました。その黙想会に参 加し、聖ホセマリアの本を読むよう になってから、キリスト者であると は、日曜日に一時間ほど教会に行く ことではなくて、常に神の現存の元

に生きることなのだと理解できました。今年になって、私はこれを辞のまでも有数の会社を辞め、二人の司祭によって創立された働いである。小さな会社で働きました。のはとてももが、目指しているのはとでします。困難はあるでしょうが、ことです。困難はあるでします。そのような状況よりも神様のだと確信しています。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shougen-8/ (2025/12/13)